

刃物の取り扱い（磨き方）について

はじめに

大人でも現代の社会の中では刃物を使用する機会はまれになりつつありますし、一家に砥石がある方がめずらしいのかもしれませんが、しかし、台所の包丁などは毎日使用するものでもあり安全に使用したいものです。

刃物は切れるほど仕事は効率良く楽をして仕上げることができます。

それでは、林業の仕事で使われます刃物の研磨方法を紹介します。

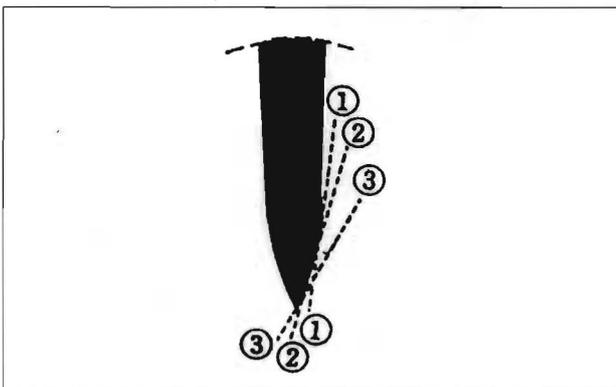
1 鉋

刃物の研磨は荒砥、中砥、仕上げ砥の3種類の砥石を使い、3段階で仕上げていきます。

- ① 荒砥……面落とし
- ② 中砥……荒仕上げ
- ③ 仕上げ砥…仕上げ

特に重要なのは、最後の仕上げ砥を使用する研ぎ込みです。

仕上げ砥で十分な砥汁が出たら水分が切れて乾く直前まで砥汁を洗い落とさずに磨くことがポイントです。作業現場で、いつも荒砥を使うのではなく、刃が欠けたときとか、刃腰を落とす以外に



は、仕上げ砥で十分に磨くことが切れ味を維持させ向上させるコツです。

鉋の磨き方は、前記の順に行いますが、中砥の傷がなくなるまで良く研ぎ込みます。この研ぎ込

みが十分でないと刃先が鋸状となり、切れ味がすぐ落ちるうえ、鉋の寿命を短くしてしまいます。

荒砥で研いだあとも仕上げ砥で磨いておかないと、作業を進めるに従って皮アカが付着して刃先の切れが悪くなります。

尚、刃先の角度は、枝径が小さいときは薄く、大きいときはやや厚めに研いで使用します。



また、細かい仕上げ砥を使用する場合は、木片に接着剤で張り付けておくと最後まで使い易くなります。

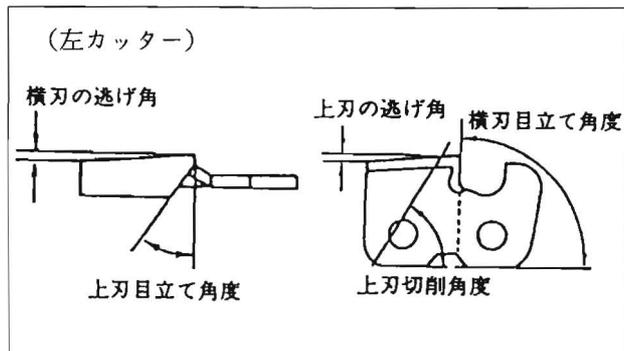
2 チェーンソー

チェーンソーはソーチェーンにより材を鋸断する機械です。ソーチェーンの刃の切れ味の確保は大切です。不良の場合は切断に苦勞し、引き曲りや、木口面に波型の刃跡を生じ、木材の商品価値を下げるばかりでなく、機械にも負荷がかかり作業中にネジ類の脱落などおこし支障がでます。振動が身体に及ぼす影響もでてきます。

目立ては、長時間使用して長時間かけて研ぐよりも、こまめに時間をやりくりして少しずつ研いで原形を保つ方が長持ちし能率的です。

ソーチェーンの一つ一つのカッターが同じように材に食込むように、カッターの各部を揃えておきます。

- (1) 目立て基準
 上刃目立て角30度
 横場目立て角90度
 上刃切削角60度



- (2) 目立ての方法
 正しいサイズの丸ヤスリを選びましょう。

現在もっとも多く使用されているソーチェーンの、ピッチに合ったヤスリ径は次の通りです。

チェーンピッチ	ヤスリ径
3/8 (9.525mm)	7/32吋 (5.550mm)
0.404 (10.26mm)	7/32 (")
7/16 (11.11mm)	7/32 (")

刃長が半分になったら
 細いヤスリを使う

やすり直径の1/5程度をカッターの上に出して目立てすることにより、上刃切削角が60度になる。

チェーンの規格、ピッチに適合した丸ヤスリを使います。

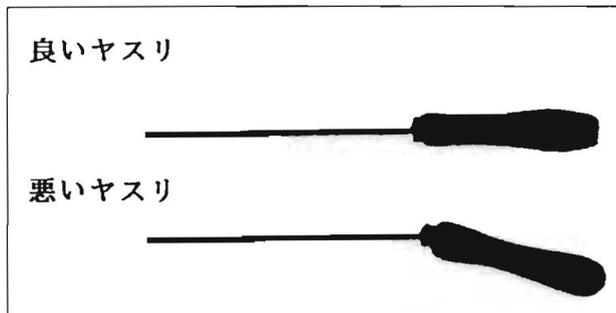
ソーチェーンを必ず固定します。

固定の方法は伐根や丸太に切り込みを入れて固定するか携帯用万力を使用して固定します。

現場で簡単に行うには、小枝をバーの下へ入れるとソーチェーンを張ることができます。

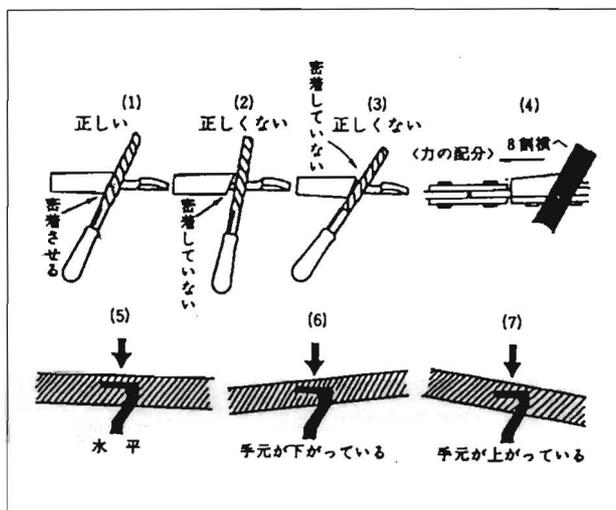
ヤスリは正しく使いましょう。

- ①ヤスリには必ず柄をつけましょう。
- ②ヤスリは正しく持ちましょう。
 ヤスリと手と腕が一直線になる様に持ちます。
- ③ヤスリは力を入れないで使いましょう。



ヤスリはむやみに力を入れて押しつけないことが大切です。

ヤスリを当てる方向は、右カッターに対してはカッターの左側から、左カッターに対してはカッターの右側から当てましょう。



④良い目立てができていないか確認しましょう。

- 目立て基準が全部一定にそろっている
- 刃の長さが全部一定にそろっている
- デプスが全部一定にそろっている
- デプスゲージの肩部に丸味がついている
- ドライブリンクの足が鋭角になっている

おわりに

この記載事項などチェーンソーの取り扱いや伐木造材に必要な知識と技術研修を、当センターでは平成9年度に4回実施します。3日間の研修日程ですのでお気軽に御参加ください。

【参考文献】

スリーエム研究会編
 間伐と枝打の実際 p. 94~95, 1978
 正しい作業のやり方 p. 32~39, 1992

(指導部 開藤)